（様式1）　　平成　25　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団　弘成会		
事業所名	ライフ明海グループホーム		
所在地	兵庫県明石市藤江205-3		
自己評価作成日	平成25年5月27日	評価結果市町村受理日	平成25年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2872000845-00&PrefCd=28&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	〒670－0955　姫路市安田三丁目1番地　姫路市自治福祉会館6階
訪問調査日	平成25年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

立地が瀬戸内海に面し、明石海峡大橋が見え、散歩コースに最高の場所である。母体が病院である事で、利用者の健康管理や急変時の対応がスムーズに行える為、家族等からは安心してもらえている。ホーム内での生活は一日のスケジュールはあるが一人ひとりのペースに合わせて日常生活が送れるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

認知症の方が住み慣れた地域での人々と触れ合いながら、家庭的な雰囲気を大切にし楽しくゆったりとした毎日を過ごしていただく共同生活の場として、開設12年目を迎えている。母体である明海病院を拠点とした介護老人保健施設など、西明石地域の医療、福祉の総合的サービス機関でもあり、有機的な連携のもとで利用者の健康面や生活面で便利さと安心感がある。また職員にとっても、介護計画や非常時の対応、研修などあらゆる面で強みとなっている。事業所の前からは瀬戸内海の海がひろがり、明石大橋や藤江海岸等も見渡せる景観に、利用者、家族にとっても癒される環境にある。隣接には小学校や幼稚園もあり色々な場面での交流もされている。今後はさらに家族や地域自治会との交流、行政との連携を図りつつ、運営推進会議の再構築に期待したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し、実践に向け取り組んでいる。	衣食住を中心に家庭と同じ生活を重視する理念を掲げている。特に昼、夜のメリハリ、食事を大切に、利用者のできることの気づきを職員が共有し、身体機能等の低下とともに課題を明確にした取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが継続できるよう家族等の協力を得ながら支援している。隣接の小学校とは交流が続いている。	小学校行事への参加、中学生のトライヤルウイークの受け入れ、地域のボランティアによるクラブ活動等は定着している。法人の在宅介護支援センターは民生委員さんとの交流はある。自治会には加入していない。	法人として一定地域とのつながりはあるが地域密着型サービスの特性を考えた時、民生委員や自治会との関わりについて再考し積極的な関わりが求められる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の勉強会、地域医療連携室による介護相談などを通して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		開設当初は開催していたが、法人が3ヵ月毎に開催している法人全体家族会に代用する形になっている。ここにはグループホーム利用者家族の参加は見当たらない。管理者は運営推進会議の必要性についての問題意識を持たれていた。	グループホームは介護施設ではなく住居としての位置づけであり、理念の一つである家庭と同じ生活の実現からも運営推進会議は必置とされている。事業所運営の効率化にも繋がるものであるだけに再開が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連絡を取り協力関係を築くよう働きかけているがグループホーム部会にも参加が難しい。	市内の事業所連絡会部会の中で、近隣の市では連携が進んでいることが議論になり、なぜ明石市は進んでいないのか真剣な話し合いが始まっている。部会として市の事業である認知症サポーター養成事業に積極的に参加する方針を確認している。	当事業所として運営推進会議を再開するにあたって保険者である明石市に考え方や実態をよく知ってもらい、課題解決のため積極的に話し合うことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関･通用口のドアはセコムが管理している。AM7:00～PM7:00までは開錠している。	身体拘束については契約書第6条に記載しており身体拘束をしなケアを明確にしている。家族の理解も得られている。研修には管理者が出席し伝達研修によって職員の理解を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。 法人内勉強会に参加している。	虐待防止や不適切ケアについての認識も深まり、夜間のケアについて朝の申し送り時に振り返りも適宜行われている。職員間のコミュニケーションに配慮し不適切ケアや虐待を未然に防ぐ理解に努めている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解はしている。現在の所必要性のある利用者はいない。	成年後見制度について、利用者が遺産相続のため必要性だったことから利用した経験があり制度の内容については理解できている。法人の在宅介護支援センターが具体的支援を担っておりつなぐことができる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談する機会を設け十分な説明を行っている。	説明は管理者同席のもとで充分な知識を持ち得ている法人の課長が行っている。看取りの同意書、専門医受診時の方針等を重点に、家族の意向をくみとり、わかりやすく説明するよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等あればその都度、話し合いの場を設けるようにしている。	利用料支払いに家族が来所する時やケアプラン作成時に意見を聴いている。なるだけオムツをしないでポータブルでの排泄を希望する声や寝たきりにさせたくない家族の思いを丁寧に聴いてケアにあたっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を申し送りやミーティング等で行い反映させている。	日々のケアについては昼休みの休憩時やミーティング、申し送り等いつも気楽に意見交換している。設備面での要望などは法人に上げるため時間はかかるが前向きに対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算1を届出。就業環境・条件整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、研修会などに参加。資格取得や認知症介護実践研修受講等進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市小規模多機能型サービス事業者、グループホームの部会に参加、情報交換や勉強会を行っている（3ヶ月に一度）		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望をゆっくり傾聴し、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談できる雰囲気や環境を作り、家族等の思いに耳を傾け良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、その時の支援の優先順位を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、昔はこうしていたと、工夫や節約術を教えてもらったり、今はこうしていると教え合ったりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら本人の気持ちを代弁したり、こうしてみたいと希望を伝え、協力をお願いしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等の希望により、外出、外泊、旅行、墓参り、法事等協力が得られている。	ご近所の方の訪問、昔の職場の知人の訪問、趣味の会の友人の訪問など、継続的な交流ができている。家族とともにお墓参りに出かけることも大切に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣の席の人との会話を楽しんだりレクリエーションに参加の声かけを利用者同士で行ったりと、良い関係が築いていけるよう支援している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気軽に立ち寄って頂けるよう声かけし、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と入浴時や居室で1対1になった時に思いや希望を聞き、把握に努めている。	利用者と気の合う職員との会話から本音の部分を聴き出したり、日頃の会話の中での気づきをカルテに記入し職員で共有している。最近では趣味の一つに習字があることを把握し、習字クラブに参加してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等より生活歴等、得た情報はアセスメントシートに記入し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に声をかけながら、その日の表情動作、声のトーンなどから状態を把握し、その情報を共有し対応している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態をスタッフ、訪問看護師等と話し合い、本人の状態に即した介護計画を作成している。	6か月毎のサイクルで、3ヵ月毎の評価を基準に作成している。家族からの意見、希望を大切に捉えるため、面会の機会を増やしていただくことにも留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの対応策や工夫を個人カルテの介護記録に記入し、情報を共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が病院のため外来受診や健康診断、介護老人保健施設も併設しているのでその時々のニーズに対応できている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアグループ3団体が来所し、利用者や家族等交流を楽しみにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院のため、主治医を同法人病院にする利用者がほとんど、専門医に受診の場合は医師同士の連携に配慮している。	かかりつけ医への受診は家族が同行することを契約時に確認していることもあり、法人の病院を利用するようになって家族の負担が軽減されている。専門医への受診は情報提供書を持って家族が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師による健康チェックや相談、助言をもらえるよう支援し、情報を共有している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人内の地域連携室を通して入院等の調整をしている。	入退院時は法人の地域医療連携室が窓口となり連携が取られている。ホームでの生活の様子など必要な情報提供を円滑に行うことで入院先の病院に利用者の普段の様子を伝えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階をおいて十分な話し合いを行い、家族や利用者本人の希望に添うように医療、看護、介護が協力し合って支援している。	契約時に看取りの指針を説明し同意書にサインをいただいている。病院併設の強みもあり4月に看取りを始めて経験した。家族の思いや葛藤にも寄り添い、職員の自信にもつながっている。新たな課題も見え検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに添って行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、火災通報装置設置している。病院や老健より救援体制ができている。	防火についてはスプリンクラー等設置している。避難訓練は法人として年2回実施し、避難場所の確認もできている。海辺に面していることもあり、地震、津波対策については今後の課題である。備蓄は法人として完備している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり声かけを工夫しその人に合った声かけをし意欲が出るように心がけている。	排泄時の声かけや、入浴介助は「老いても女子だよ」の言葉を尊重し同性職員が信頼関係を築いてから行うなど、自分がされたらイヤなことはしないことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをゆっくりと聞き、主体的な決定が行えるよう支援し、その決定を尊重するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールにしたがって声かけをしている。本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事等に合った衣類を着てもらえるよう、さりげなくアドバイスをしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持てる力を活かしながら行っている。少しでも食べてもらえるよう工夫している。	昼食は利用者と職員が一緒に準備や食事、片づけをしているが、朝食と夕食は同一法人の給食を利用している。高齢化が進み食材の買い物、準備の参加等が少なくなりつつある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護師と相談しながら、食事の内容、形態、水分摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として身についている人、声かけ見守りが必要な人、介助が必要な人等、一人ひとりに合った支援をしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄のパターンを把握し、食事やレクリエーション等の始まりや終りに声かけしたり希望の時間帯に声かけをする事で失敗を減らしている。	おむつの利用者が5名いるが、個別の排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄に努めている。特に夜間も利用者の希望の時間帯を確認して声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをする事で便秘の有無を確認し、医師、看護師と相談しながら食事の工夫、水分補給、マッサージ等で支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めグループ分けをして個々の対応をしている。入浴困難な場合は、足浴、清拭などで対応している。	入浴は利用者の体調的なことから週2回（火･金と水･土）日中（1～4時）にグループ分けして対応している。入浴困難な場合や拒否される時は、清拭等などで対応しているが、週1回は入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時はレクリエーション等は休んで頂き、居室で静養するようすすめている。消灯の時間は決めていないが遅くならないよう声かけはしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になったり効果が強く出たりした時は訪問看護師、医師に相談し確認をとりながら服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った好みの事を毎日取り入れ、その人の持つ力を活かせるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら旅行、買い物、外食など支援している。	日常的な外出は、週3回隣接のリハビリセンターへの散歩を兼ねている。体力的な低下で外出する機会は減っているが、3～4名の利用者はお盆や正月に帰省、旅行、買い物、外食などで家族と過ごされる。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度に所持されている。老健の売店などへ必要な物を買いに行ったり、買い物ツアーなどの代金支払い時支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者家族等の面会が多いので利用する人はいないが、電話をかけたい人は詰所からかけられるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にイスを置き外を眺めている人、活けてある花を見て季節を感じる人、デイルームには自由に使えるマッサージチェアーが置いてあり、いつも使用している人がいる。	玄関横の廊下（通路）には日差し避けにブラインドーカーテンが設置された。また玄関前・外には椅子をおいて瀬戸内海が見渡せる。季節感を感じさせる花も活けている。デイルームにマッサージチェアもあり利用されていた。廊下には作品展示もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のドアはいつでも開けてあり自由に使用できる。気の合う人どうしテレビを観ていたり、新聞を読んだりと思い思いに過ごしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や時計等置いてもらい、本人がいごこち良く過ごせるよう工夫している。	居室は明るく、ほとんどの部屋には家族の写真が置かれており、手作り作品などが壁面に飾られ本人らしい工夫が見られる。使い慣れた時計や毛布（電気毛布）なども持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできる事を維持するよう一人ひとりに合った対応を心がけている。声かけ一つにしても工夫し、力を引き出す支援をしている。		